

## 学校は小郡市最大のブラック企業か？

# 教員の勤務、労基法違反状態

小郡市議会議員 しんばる善信後援会だより

# つなぐ

発行  
しんばる善信後援会  
小郡市小郡1304-2  
0942-73-2123



## 残業手当なしで心身ともに疲弊、改善待ったなし

一昨年12月、電通の女性新入社員が過酷な長時間労働に耐えかね自死した事件は大きな社会問題となりました。電通は厳しい批判を浴び社長は引責辞任しました。実は、このような長時間労働の問題は小郡市の学校でも起こっています。

しんばる議員はこれまで何度も問題点を指摘してきましたが事態は一向に改善されず深刻の度合いを深めています。教職員は心身ともに疲れ、活力ある教育活動を行うことができなくなっています。質問ではこの問題解決に向け市教育委員会に一層真剣な取り組みを求めました。

### 残業手当なしで長時間労働

教員には残業手当はなく、月4%の調整額が支給されているだけです。これは、およそ残業8時間分です。ところが市教委の調査では、実際の時間外勤務は月平均小学校52時間、中学校69時間となっています。

学校に残り夜おそくまで仕事をし、終わらなければ家に持ち帰るといふ過酷な毎日に、心身ともにボロボロになって病気になる教員

も後を絶ちません。

### 労働基準法違反、県条例違反を放置

教員の勤務時間は、労働基準法で1日8時間、週40時間、福岡県条例では1日7時間45分、週38時間45分と定められています。しかし、学校現場では全く守られていません。労働基準監督官が立ち入り調査をすれば大変な問題となり、責任者は告発されるような状況

です。しかし、法的に適用除外されているため責任の所在があいまいで長年放置されてきたのです。

### 教育長、勤務時間管理責任者は校長と答弁

教員の勤務時間管理責任は誰にあるかとの質問に対し、教育長は責任は校長にあり最終的には、服務監督権を有する市教育委員会にあると答えました。つまり、労働基準法違反状態を解消する責任は、校長及び教育委員会にあるということですが。しかし、両者ともこれまで十分責任を果たしてき

たとはいえません。教育長は、具体的な改善策について、校長会と意見交換を行い超過勤務の縮減の取り組みを進めると答えました。

へとへと、息も絶え絶え、病氣寸前、働き続けられない、自分の家庭生活は犠牲

多くの教員が疲れ切っている

ます。特に多忙を極める学級担任の中には定年を待たずに退職する者も多くいます。それでも学校の子どもたちのために、わが身に鞭打って仕事を続けているのです。こんな状態で子どもの前で明るく夢と希望を語るなどできるでしょうか。今のような長時間労働は結局教育をやせ細らせ質の低下につながっていくことは間違いありません。

### 教育長は決意宣言すべし

しんばる議員は、労働基準監督官の立ち入り調査ができないのなら、教育長が率先して時間外勤務を縮減すると宣言するべきと求めたのに対し、教育長は、業務改善と指導体制の充実を行うと述べただけで決意の宣言はなく、不満の残るものでした。

今後も、市教委に対し実効性のある対策が実施され、教員の長時間勤務が解消されるよう求めていきます。

# 小郡市に住んでよかった！

## 「幼児ことばの教室」常設は保護者の悲願

### 国の補助金活用で4倍に



「幼児ことばの教室」は、聞こえとことばに困難を抱える子を持つ親たちの早期療育の求めに応じ市教育委員会が大原小内に開設しているものです。初めは、年にわずか6日、26人の子どもの療育から始まりまし

「幼児ことばの教室」というのは、小学校入学前の聞こえとことばに困難を抱えている子どもたちに対し、専門の言語聴覚士が1対1で療育を行ったり保護者の相談に応じたりするものです。現在、大原小学校に開設されていますが、年々希望者がふえ、保護者からは常設にしてほしいとの強い要望が何年も前から出されています。しんばる議員は、障害者総合支援法の事業を活用することで常設化できないかについて質問しました。

2006年開設、年6日でスタート

#### 希望者増え、対応に限界

その後、療育の希望者は増え続け、2016年には74人になっています。これに対し、開設日も年50日に増えましたが、それでも指導が十分に行える体制になっていません。

#### 早期療育の効果大 小郡市の「障害」児支援に 保護者から高い評価

6年生の難聴の子の保護者から話を聞きました。「小郡市に転居し保育所の紹介で幼児ことばの教室を知りました。その後、通級教室に通っていますが、補聴器をつけていけば、難聴であることが分からないく

らい普通に会話できます。保育所の先生、市役所の福祉課、学校の先生方も手厚く接してもらい、とても感謝しています。」  
子どもの障害で悩んでいる多くの保護者の切実な願いに添えていくことの大切さを改めて考えさせられました。



#### 担当課間の連携不足指摘

本来、小学校入学前の障害児支援の担当課は福祉課ですが、設立の経緯からこれまで教育委員会が所管してきました。このため、平

成25年4月に施行された障害者総合支援法の補助事業について関係部署間の連携が十分にとれておらず活用されていませんでした。  
しんばる議員は、関係する教育委員会、福祉課、子育て支援課が緊密に情報を共有し、子どもと保護者の願いに添えていくよう求めました。

#### 保護者の不安解消には 十分な情報提供が必要

障害のある子の保護者はどこでどんな療育をうけたらよいかの情報を求めています。乳幼児健診での発見から療育につなげる一連のきめ細かい支援の流れが重要であり関係部署間の一層の連携を求めました。

#### 来年度は、年75日開設

国の補助事業活用で4倍の日数開設が可能ですが、指導者確保の問題もあつて当面来年度は25日増の年75日開設する予定です。

## 今どきの高校生はしっかりしてる！

# 高校生と初の意見交換会

高校生69名が町のことや将来について意見交換

小郡市議会は、昨年まで「市民との意見交換会」を実施してきましたが、毎年若者世代の参加が少ないことが課題となっていました。そこで、今年度は選挙権年齢が18歳まで拡大されたこともあり、市内の小郡高校と三井高校に呼びかけ高校生との意見交換会を実施しました。

### 議会や政治のことを もっと知りたい

今回、小郡高・三井高合わせて69名が参加しました。しんばる議員が議会の現状をプレゼンで説明した後、3つのグループに分かれて意見を交換しました。その中で、高校生たちは道路や街灯の改善、待機児童等について意見を述べました。また、将来の不安についての話では、大学へ行っても就職できるか不安という声が多く聞かれました。

終了後、高校生たちは初めての体験をよかったと肯定的に受け止めていて、もっと政治や議会のことを知りたいと意欲的でした。

今回の高校生との意見交換会は議員にとっても新鮮な刺激となりました。



## 市内保育園長会と意見交換会

### 障害児保育と待機児童問題

しんばる議員が委員長を務める保健福祉常任委員会、市内13園の保育園長と「障害児保育」「待機児童問題」をテーマに意見交換会を行いました。

いですが、内定者は来年4月必要人数を大幅に下回っているということ。その一番の原因はハードな仕事に比べ賃金が安いことです。近隣自治体の中で安い部類の小郡市には希望者が来ないと言います。園長たちからは悲鳴に似た保育現場の窮状が訴えられました。

「障害児保育」については、小郡市は以前からどの子も受け入れる方針をとっており、障害を持つ多くの子どもたちが保育園に通っています。これらの子どもたちを受け入れるためには保育士の加配が必要です。しかし、市補助金が少ないので、ただでさえ保育士不足の中、なり手がおらず大変困っています。

また「待機児童」解消の問題では、特に0歳児の入園希望が増えていて、子ども3人に一人の保育士が必要なので余計に人手不足となっています。

各園とも、大学やハローワークなどに求人を出して

保健福祉委員会では、出された意見をもとに、12月議会で委員会として城山副委員長が質問しました。これを受け、小郡市は来年度募集する公立保育所の嘱託保育士の賃金を1万円上げて月額18万5千円とし、また、障害児保育加配補助金増額を検討し始めました。

これから先、子育てに力を入れていく小郡市であれば尚のこと、近隣に引けを取らぬ思い切った予算を付け、保育を充実させていくべきです。

### この1さつ



**置きかれた場所で咲きなさい**  
渡辺 和子 著

著者の渡辺和子さんは、カトリック修道女で岡山にあるノートルダム清心女子大学の学長、理事長を歴任された方です。昨年12月30日、89歳で亡くなられました。以前小郡市でも講演されたことがあり、話を聞いて

たことがあります。9歳の時、二・二六事件が起こり目の前で当時陸軍教育総監だった父親の渡辺錠太郎大将が射殺され、その記憶に長く苦しまれたそうです。この本には、クリスチャンとして教育者として悩みな

がら誠実に生きる道を求めてこられた渡辺さんの愛に満ちたメッセージがどのページにもあふれています。その中から一つ「あなたが大切だ」と誰かに言ってもらえるだけで生きていける。」



朝、犬の散歩がてら道端のごみを拾っていただきます。特に多いのはタバコの吸い殻で、中には火が付いたままポイ捨てされた燃えさしも落ちています。散らかるだけでなく火災の危険さえあります。

す。毎日拾っているのに、一向にごみは減りません。写真はある朝20分ほどで拾ったごみです。かつて北野町がごみポイ捨て禁止条例をつくり、効果を上げたことがありました。啓発看板を立て、みんなでゴミ拾い活動に取り組んだのです。今後改善が見られないようなら小郡市でもごみポイ捨て禁止条例をつくった方がいいのかもしれない。

## 「ごみポイ捨て禁止条例」つくるべきか？

### 福岡県退職教職員協会 地域教育文化事業

いくさば とうどう  
**ドキュメンタリー映画 戦場ぬ止み**

国は沖縄県宜野湾市にある米軍普天間飛行場を名護市辺野古沖に移設する計画を進めています。戦後ずっと米軍基地によって騒音や犯罪で苦しんできた多くの県民が、これに反対する運動を続けています。新聞やニュースではわからない実像が生き生きと描かれていて、人々がなぜ反対するのか深く考えさせられる映画です。

とき 2016年1月28日(土)  
13時00分 開場  
13時30分 開演

ところ 小郡市文化会館大ホール

参加協力金 500円(当日可) 小中学生 無料

#### 議会いほれ話

#### 議員年金復活は是非か

以前、小郡市議会議員は3期12年勤めれば、退職後月におよそ11万円の年金をもらえました。もちろん、現役の間、月7万円余の年金掛金を払っていました。ところが、平成の大合併により全国で大量の議員が退職したため議員年金財政が破たんし、退職者への給付は続けられる一方、年金制度そのものは廃止されてしまいました。このままでは若くして議員になった者には老後6万余円の国民年金しかありません。そうすると定年退職者が副業をもつ者しか議員になれません。これでは若い世代の議員のなり手がいなくなるのではないかと危機感から新たな議員年金制度をつくるべきとの声が出てきたのです。12月議会で見解書が提案されましたが賛否あつてまとまりませんでした。(よし)